



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
			1 	2 入学式	3 入学式	4 ×
5 ×	6 	7 	8 	9 	10 	11 ×
12 ×	13 	14 	15 	16 	17 	18
19 ×	20 	21 	22 	23 	24 	25
26 ×	27 	28 	29 昭和の日	30 		

施設見学 9:00～16:30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30～17:30

天体観望会 19:00～21:00
(定員あり/要予約)

休館日

月の形 (満月・新月・半月および観望会実施日)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階展示フロアでは企画展「星を観る鏡 日々を写す鏡～京都で産まれた反射望遠写真機～(～6/19)」, また、3階では荒木望遠鏡(国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡)が見学可能です。(常設展は企画展期間中休止)

天体観望会

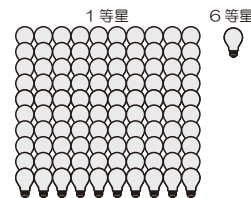
荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。また、宇宙の3D映像上映会を開催します。

よくある質問

観望会などでよく聞かれる質問にお答えします★

① 1等星や5等星…等級ってなに？

星の明るさを表す単位です。2000年よりも昔に、古代ギリシャの天文学者ヒッパルコスが、夜空でもっとも明るく見える星を1等星、次に明るい星を2等星…と順番に決めていきました。目で見えるいちばん暗い星が6等星です。今では、1等星と6等星の明るさの違いは100倍と決められています。



② 星の数はどのくらいあるの？

私たちの太陽系がある「天の川銀河」には、約2000億個の星があります。さらに、宇宙には天の川銀河のような星の集まりが1000億個以上もあると考えられています。2000億×1000億…計算してみてくださいね。実際に肉眼で確認できる星は、だいたい6等星までで、その数は全天で約8600個です。しかし、街明かりなどの環境で見える星の数が減ってしまうこともあります。みなさんのお家のまわりでは何個の星が見えますか？

③ 北極星ってどんな星？

地球は少しかたむいたまま回転しています(自転)。地球が回転する軸をずっと伸ばした先にあるのが、北極星です。春夏秋冬と季節の星座がうつり変わっても、北極星だけはほとんど動かないように見えます。そのため、北を知る目しるしとなります。今の季節は、北斗七星から北極星を探してみてください。

月のかたちは？

菜の花や月は東に日は西に
与謝蕪村

春の菜の花畑の風景を讀んだ俳句だけど…
月はどんな形だったんだろう？

夕方、同じ時刻でも
日によって月の形も
見えている方位も
違うんだね！

夕方 西の空に沈む太陽と
東から昇ってきた満月に近い丸い月。
昔のカレンダーは月の満ち欠けをもとに
していたから、この句が詠まれた日も
ある程度推定することができるんだよ！

企画展

星を観る鏡 日々を写す鏡

～京都で産まれた反射望遠写真機～

3月21日(土)～6月19日(金)開催中!

第一次世界大戦後の好景気と大正デモクラシーの追い風を受け、関西の天文学は大きく発展しました。独学で反射鏡研磨法を広めた山崎正光、その技術の世界水準へ高めた中村要、望遠鏡製作を事業化した西村製作所、そして反射望遠写真機を開発した宮澤堂。宮澤は後に関西光学研究所を設立し、反射光学系の研究と工業化を推進しました。こうして京都で育まれた光学系技術が、戦時下をどう乗り越え発展したのか。反射望遠写真機と関西光学工業(カンコー)の宮澤堂の資料を中心に、その軌跡を紹介します。



カンコー 2600/日本カメラ博物館所蔵

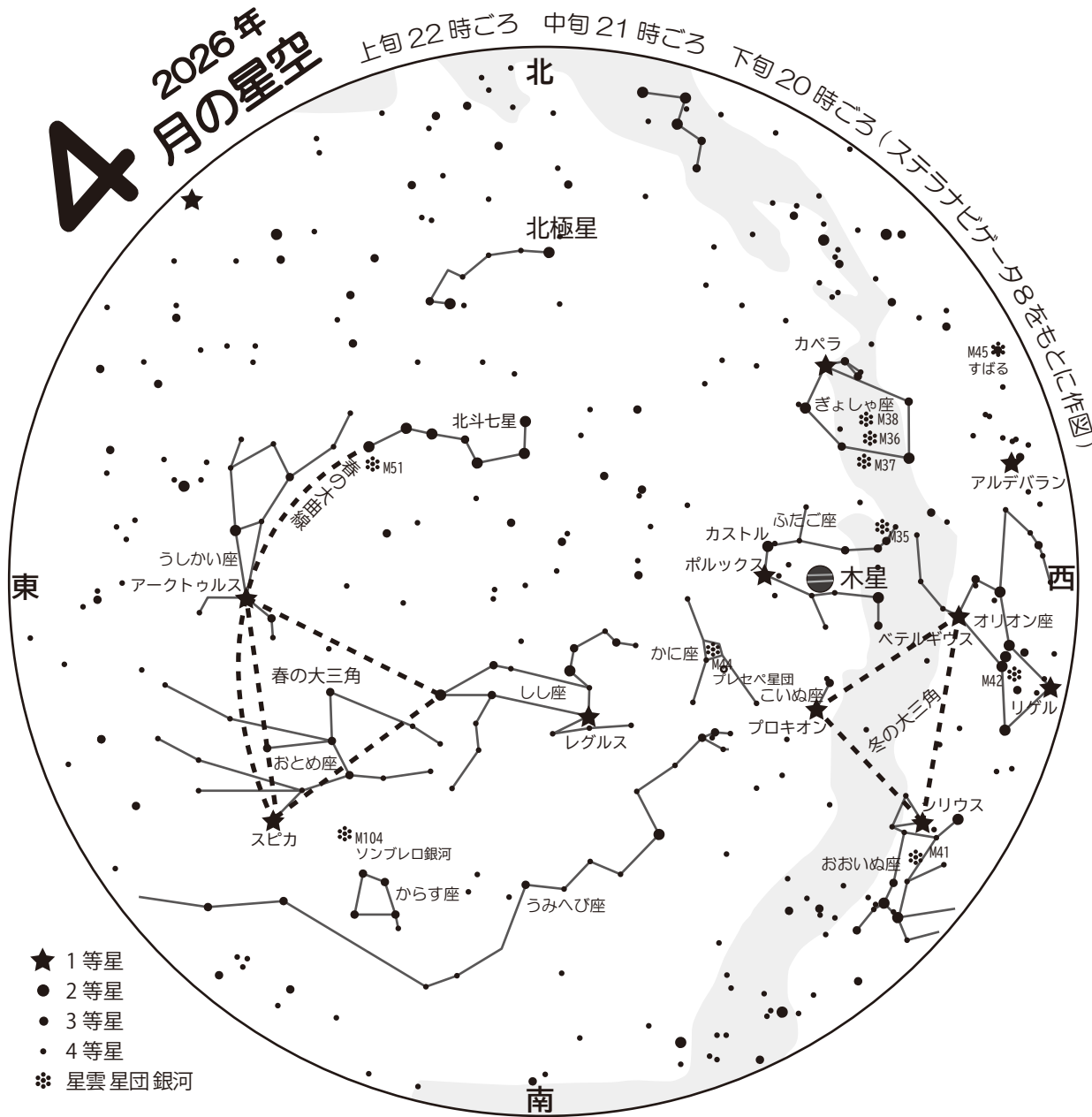
発行

京都産業大学 神山天文台
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
☎075-705-3001
🌐https://www.kyoto-su.ac.jp/observatory/

【公式SNS】

✕ (旧 Twitter) @KSU_KoyamaObs
Instagram koyama_tenmondai

2026年4月見ごろの天体



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

春の三日月、秋の三日月

夕方、西の空に細くかかる三日月。季節によってかたむきが異なることにお気づきでしょうか？春の三日月は横に寝ていてお椀や釣り舟のような形に見えますが、秋に見える三日月は縦に立っているような形に見えます。春は酒が満ちる月、秋は酒がこぼれる月とも例えられます。春は太陽の通り道（黄道）が地平線に対して立っているため、黄道の近くにいる三日月の高度が高く見やすく、下側から太陽の光が当たります。4月は20日、21日あたりに細い月が見られます。

★散光星雲 (さんこうせいうん) : Diffuse nebula

西に沈みゆくオリオン座の三つ星のすぐ南に並ぶ小三つ星のうち、真ん中の天体は星ではなく散光星雲で、この中で今も次々と星が生まれています。望遠鏡を覗くと、星雲のガスと、生まれてから約150万年しか経っていない赤ちゃん星が台形の形に4個並んでいるトラペジウムが見えます。明るく輝く生まれたての星々の光が周囲のガスを照らして温めることによって、オリオン大星雲は輝いています。

★散開星団 (さんかいせいだん) : Open cluster

西に低くなっていきますが、ふたご座の足元にはM35、ぎょしゃ座にはM36、M37、M38の三つの散開星団が並んでいます。恒星は、オリオン大星雲のようなガスの濃いところに集団で生まれ、若い星たちが集まった散開星団となります。散開星団の星たちは、時間が経つと少しずつ離れていくと考えられています。おうし座のプレアデス星団（すばる・M45）や、かに座のプレセペ星団（M44）も双眼鏡や低倍率の望遠鏡での観察がおすすめです！

★赤色巨星 (せきしょくきょせい) : Red giant

恒星は安定して輝く時期が長く続きますが、恒星の内部の水素を使い果たすと恒星の内部が縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。うしかい座のアルクトゥルスは赤色巨星で、直径は太陽の約20倍です。オリオン座のベテルギウスも赤色超巨星で、直径は太陽の約650倍も大きいことが観測されています。恒星の寿命が尽きようとしていて、いつ超新星爆発を起こしてもおかしくありません。

★二重星 (にじゅうせい) : Double star

春の夜空では、いくつかの重星を観望することができます。重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡を覗くと2つの星に見えます。北斗七星を形作るおおぐま座ε（ゼータ）星（ミザール）は、肉眼でもアルコルとペアになっているように見えますが、これは同じ方向に偶然星がある「見かけの二重星」と考えられます。一方で、ミザール自体は2つの星がペアになった連星です。望遠鏡を使うとミザールの2つの星を見ることができます。その他、りょうけん座コル・カロリヤしし座アルギエバも観察しやすい二重星です。